

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2018年6月）**

目 次

**内 政**

- ◆政党支持率調査結果 . . . . . 2
- ◆2018年11月統一市長村長・議会選挙の展望 . . . . . 2

**外 政**

- ◆スロバキアの2019年OECD閣僚理事会議長国への選出 . . . . . 3
- ◆ペレグリニ首相の欧州理事会出席 . . . . . 3

**社 会**

- ◆スロバキアの自国史に関する世論調査 . . . . . 4

**経 済**

- ◆米国による追加関税措置のスロバキアへの影響 . . . . . 4
- ◆ジーテクト・ニトラ工場の建設 . . . . . 5
- ◆ミネベアミツミ・コシツェ工場開所式 . . . . . 5
- ◆スロバキア中欧銀行中期予測（第2四半期） . . . . . 6
- ◆スロバキア中央銀行月報（6月） . . . . . 7

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

**内 政**

**◆政党支持率調査結果（25日）**

世論調査機関AKOによる6月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	21.0%(35)	28.3%
SaS（自由と連帯）	15.5%(26)	12.1%
LSNS（我々のスロバキア）	11.1%(19)	8.0%
SNS（スロバキア国民党）	10.2%(17)	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	9.3%(16)	6.6%
OLaNO-Nova（普通の人々・独立した人達 -新たな多数派）	8.6%(14)	8.6%
KDH（キリスト教民主運動）	7.2%(12)	4.9%
Most-Hid（架け橋）	6.3%(11)	6.5%

**◆2018年11月統一市長村長・議会選挙の展望**

**【ブラチスラバ市長選挙の展望（26日付プラウダ紙）】**

25日、ネスロヴナル・ブラチスラバ市長は、無所属としてブラチスラバ市長選挙に再度立候補する旨表明し、「今後も、ブラチスラバを政党や企業グループの手に渡さないことを保証する。選挙戦ではいかなる政党の支持も受け入れず、選挙資金20万ユーロを自分で用意する」と述べた。

ブラチスラバ市長選挙には、現時点で6名が立候補を表明している。中道右派野党「自由と連帯（SaS）」、「独立した人々・普通の人達（OLaNO）」、「我々は家族（Sme rodina）」は、ムルヴァ・ヴァイノリ区長を支持することで一致した。国会に議席を有していない新党Progressive Slovakia及びSpoluは建築家のヴァルコ氏を、キリスト教民主運動（KDH）は経営者のリーシュコヴァー氏をそれぞれ支持している。

連立与党の各党は、現時点では候補者を擁立していないが、最大与党Smerはネスロヴナル氏の支持を検討していると憶測する者もいる。前回（2014年）のブラチスラバ市長選挙では、10人の候補者中7人が無所属で、ネスロヴナル氏が38.7%の得票率（約5万票）で当選した。

**【市長村長・議会選挙に向けた与野党の動き（29日付スメ紙）】**

連立与党第3党「架け橋（Most-Hid）」はコシツェ市長選挙において、与野党候補者に拘らず、既に立候補している候補者のいずれかを支持する見込みである。連立与党第1党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」及び同第2党「ス

ロバキア国民党（SNS）」も、他党との選挙協力の可能性を排除していない。市長村選挙では、与野党が同一の候補者を支持することは珍しくなく、前回2014年の選挙ではニトラ、 Banska Bystrica、 Trenčín市長選挙で、与野党間での選挙協力が行われた。

中道右派野党SaS, OĽaNO, Sme rodinaは、ブラチスラバの他に、コシツェ、 Banska Bystrica、 ジリナ、 ニトラ市長選挙で、同一候補を支持することを決定している。

世論調査AKOのフシーフ氏は「市町村選挙では、政党色よりも候補者自身の人間性が決定的な意味を持つ」と述べつつ、「自党が支持する候補者が当選すれば、有権者に対して大きな宣伝効果が得られる」と指摘した。

（注：7月3日付プラウダ紙によると、ジャーナリスト殺害事件以降に大規模反政府デモを主催した市民団体「正しいスロバキアのために（For a Decent Slovakia）」は、ブラチスラバ、ニトラ、ジリナ市で無所属の市長候補者を支持することを表明。）

## 外 政

### ◆スロバキアの2019年OECD閣僚理事会議長国への選出（4日）

パリで行われたOECD閣僚理事会（MCM）において、2019年のMCM議長国にスロバキアが就任することが決定された。ジガ経済相は「MCM議長国は全ての国にとって名誉なことであり、国際的な知名度も高い。スロバキアは尊敬を受ける国となり、重要な経済テーマについての会合を開催する機会を得た」と述べた。

### ◆ペレグリニ首相の欧州理事会出席（28～29日）

28～29日にブリュッセルで行われた欧州理事会では、主に移民問題等について話し合われ、EU域外国境管理の強化及びEU域外における難民センターの設置等について合意された。

29日、ペレグリニ首相は、「議論の方向性が難民強制割当制度からEU域外国境管理に転換されたことを嬉しく思う。スロバキアは長期にわたり、このような転換を求めてきていた」と述べた。

ペレグリニ首相は「必要があれば、1200人程度の難民を周辺諸国から一時的に受け入れることができるが、スロバキア政府の同意なしにスロバキアが難民を受け入れることはない」と述べた。

ペレグリニ首相は「EU域外国境の管理の徹底及び第三国における欧州への移民希望者のための『下船プラットフォーム』の設置が、会合における主な結論となった。シェンゲン圏加盟国が、国ごとに国境を封鎖する事態は避けられ

た」と述べた。

## 社会

### ◆スロバキアの自国史に関する世論調査（12日付プラウダ紙）

今年3月、スロバキア科学アカデミー社会学研究所、公共問題研究所（I V O）、チェコ科学アカデミー社会学研究所等は、スロバキア人及びチェコ人を対象に、20～21世紀の自国史に関する世論調査を合同で実施した。同調査によると、スロバキアで最も肯定的に捉えられている歴史的イベントは1944年のスロバキア民族蜂起であり、次いで1993年のスロバキア独立、1989年のビロード革命である。

スロバキアで最も否定的に捉えられている歴史的イベントは、1968年のワルシャワ条約機構軍によるチェコスロバキア占領であり、次いで1994～1998年のメチアル政権時代、1948年の共産党政権の成立である。

スロバキアの現代史において最も尊敬されている人物は、チェコスロバキア建国に貢献したシュテファークであり、次いで「プラハの春」の指導者ドゥプチェク、初代チェコスロバキア大統領のマサリクである。

スロバキアの現代史において最も人気のない人物は、メチアル元首相、ビリャク（注：「プラハの春」改革に反対し、ワルシャワ条約機構軍の軍事介入を要請した政治家）、ティソ（注：ナチスドイツの傀儡国家「スロバキア国」の大統領）である。

## 経済

### ◆米国による追加関税措置のスロバキアへの影響

#### 【米国の鉄鋼、アルミニウムの輸入制限措置（1日付スメ紙）】

1日、米国はEU、カナダ、メキシコから輸入する鉄鋼とアルミニウムに、それぞれ25%、10%の追加関税を導入した。USスチール・コシツェ社のバチャ報道担当は、「米国の追加的な関税賦課による当社への直接的な影響はない」と述べた。財政政策研究所（IFP）によると、スロバキアの鉄及び鉄鋼の対米輸出額（2016年）は500万ドルであるが、これは鉄及び鉄鋼の全輸出額の0.2%以下に過ぎない。

但し、関税の導入に伴い米国におけるEUの鉄鋼需要が減少した場合、鉄鋼価格が下落し、USスチール・コシツェ社にも間接的な影響が出る可能性がある。

#### 【米国の自動車等に対する追加関税措置の可能性（20日付経済新聞）】

米国は輸入自動車等に対する25%の追加関税を課すことを検討しているが、

財政政策研究所（IFP）が19日に公表したマクロ経済予測によると、実際に米国が輸入自動車等に対する追加関税措置を導入した場合、スロバキアのGDPは最大で0.1%減少し、9300万ユーロ失うことになる。スロバキアの全体のGDPに占める米国への自動車輸出の割合は1.7%で、EU加盟国の中で最も高い（2番目に高いのはドイツの0.6%）。

VUB銀行の経済学者アラディ氏は「スロバキアが米国に輸出している自動車は高級車であり、追加関税措置が導入されたとしても、購入者にとって自動車価格の上昇率はそれほど気にならないかもしれない」と指摘した。

スロバキアに3つある自動車メーカーのうち、直接米国に輸出しているのはフォルクスワーゲン（VW）のみである。昨年、VWブラチスラバ社は36万1776台の自動車を生産したが、その内20%に当たる7万2355台を米国に輸出した。スロバキアの自動車の対米輸出額（2016年）は約15億ユーロであり、自動車の全輸出額の1.5%以上を占めている。

#### ◆ジーテクト・ニトラ工場の建設（11日付トレンド誌電子版）

日系企業「ジーテクト」は、北ニトラ工業団地において自動車産業向け金属部品を生産する工場を建設している。投資額は2500万ユーロで、70名の従業員を雇用する予定である。工場建設は竹中工務店が担当しており、建設期間は約17か月の見通しである。ジーテクトの新工場建設は、ジャガー・ランド・ローバー（JLR）のニトラ進出に関連している。

ニトラ市によると、先月行われた工場の起工式に、新美潤・駐スロバキア日本大使、ドゥヴォンチ・ニトラ市長、高尾・ジーテクト代表取締役社長等が出席した。

#### ◆ミネベアミツミ・コシツェ工場開所式（16日付プラウダ紙、経済新聞）

15日、日系企業ミネベアミツミ社のコシツェ工場開所式が行われ、ペレグリニ首相、ラシ投資・IT化担当副首相、ジガ経済相等が出席した。「ミ」社は1000人以上を雇用する予定であるが、2022年まで6000万ユーロの投資を行い、新たに2000人の追加雇用を実施する可能性がある。東スロバキアにおいては、ここ10年間で最大規模の投資プロジェクトである。生産ラインは早くも来週から稼働する予定である。

「ミ」社は新工場の他に、研究開発センターを開設し、数百人を雇用する予定である。スロバキア科学アカデミー（SAS）の経済学者バラシュ氏は「これまで東スロバキアに進出した企業の多くは、低賃金の単純労働のみを提供していた。研究開発も行う『ミ』社の進出は非常に価値が高いものである」と述べた。「ミ」社コシツェ工場は、欧州にある「ミ」社工場の中で最も近代的な

ものであり、自動車用アキュムレーター、モーター、換気装置及びLCD照明等を生産する。「ミ」社は各工業高校及びコシツェ工科大学との協力も行う予定である。ジガ経済相は「工業団地周辺の道路及びトラム網整備のため、政府は2400万ユーロ拠出する」と述べた。

#### ◆スロバキア中銀2018年第2四半期中期予測

##### 1 GDP

2018年第1四半期のユーロ圏経済は前期比で0.4%の成長となり、2017年第4四半期の伸び率を0.3%下回った。

2018年第1四半期のスロバキアの経済成長は好ましい傾向を維持し、前期比で0.9%上昇した。個人消費が雇用率の上昇と力強い賃金の伸びを背景に堅調な伸びを維持したことで、内需が経済成長の大部分を占めた。

スロバキアの経済成長は、主に自動車産業の生産能力拡大とそれに伴う輸出の伸びにより、2018年は4.0%、2019年は4.9%と加速すると見られている。生産能力拡大のプラスの影響が薄れた後、GDPの伸びは緩和し、2020年には4.0%になると予測されている。

##### 2 労働市場

景気は純雇用の創出を下支えすると考えられるが、同時に、人口動態のマイナス作用と失業者数の減少により、求人への充足ペースは遅くなることが予想される。2018年の雇用率は1.8%、2019年と2020年はそれぞれ1.2%、1.0%に緩和すると見られる。

全体の求職者数に基づく失業率（スロバキア労働局算定）は引き続き低下すると見られる。2018年に予測されている7%前後の水準から、2019年には6.5%に低下し、2020年には更に下がって5.9%となる見込みである。

賃金の伸びは、公共部門と民間部門の両方の賃金上昇により堅調に推移すると見られる。名目賃金の伸びは2018年第1四半期予測から上方修正され、2018年と2019年は共に5.8%、2020年は5.6%の予測となった。

##### 3 物価

家計所得と輸入物価の上昇が物価上昇の最大の牽引役となると見られ、サービス価格及びエネルギーを除く鉱工業製品価格に大きな影響を与えると予想されている。2018年の消費者物価指数は2.6%、2019年は2.4%、2020年は2.3%と見積もられている。

#### 4 外部環境及び外需

継続する世界的な経済活動の拡大の恩恵を受け、好ましい資金調達条件によってユーロ圏の目覚ましい経済成長は続き、ユーロ圏の輸出も堅調を維持すると見られている。スロバキアの2018年の外需の成長予測は第1四半期中期予測から0.1%下方修正され、5.2%となった。2019年は5.0%（0.4%増）、2020年は4.2%（0.1%増）に上方修正されている。

#### ◆スロバキア中央銀行月報（6月）

##### 1 GDP

ここ数か月の世界経済は、世界貿易における保護主義的措置の適用の影響により困難な状況が続いている。この状況が更に深刻化すれば、外需に対し脅威を与える可能性がある。

4月のスロバキアの鉱工業生産は3か月前比で停滞した。石油化学部門の生産量は、保守及び点検のための一時的な生産停止により20%落ち込み、スロバキアの鉱工業の低迷に大きな影響を与えた。他に落ち込みが見られた部門は、電気及び電子機器、金属製品、化学製品であった。4月の鉱工業生産は前年同期比では4.1%増加した。

##### 2 労働市場

4月の雇用率は前年同期比で3.7%上昇したが、前月比では0.1%増に過ぎず、昨年同月の大半に比べてより穏やかな伸びを示している（2017年の前月比伸び率の平均は0.25%）。

全体の求職者数に基づく5月の失業率（スロバキア労働局算定）は、2013年3月以来続いていた下降が止まり、前月比0.11%増、人数にして約1000人の増加となる6.7%となった。季節調整前の登録ベースでの4月の失業率は前月比で0.05%下落し、5.37%となった。

4月の平均賃金は前年同期比で6.3%上昇した。賃金の伸びの主な牽引役は、伸び率が7%を超えた商業と同様に堅調であったサービス業だった。4月の平均賃金は963.3ユーロであった。

##### 3 物価

5月の消費者物価指数は前年同期比2.7%増と減速した。前月比の増減は0.0%で変動はなかった。5月の消費者物価指数は、主に航空輸送と非加工食品の価格下落によって減速した。

わずかな下振れリスク（エネルギー価格の成長鈍化の可能性）はあるものの、引き続き2018年の消費者物価指数は2.0%を超えると予測されている。

#### 4 貿易

4月の商品輸出は前年同期比で9.1%、輸入は9.9%それぞれ増加した。  
貿易黒字は3900万ユーロであった

(了)



# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

